

令和3年9月2日

京都府農林水産技術センター農林センター

今後の台風に備える農作物等の対策 農業技術情報（第4号）

気象庁の3か月予報（令和3年8月25日発表）によると、西日本では、向こう3か月の平均気温、降水量はほぼ平年並と予測されています。これからの季節において、降水量が多くなる要因として最も大きいのは、台風の影響です。10月までは、台風の発生も多く、接近、上陸に伴う被害が想定される本格的な台風シーズンです。9月は太平洋高気圧の縁を回って北上し、日本付近を通過する台風が多くなります。日頃から台風への備え、対策をしておくようにしましょう。

1 水稲

（1）通過前

- ① 既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

（2）通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ等穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。ただし、浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで、高水分となっているので、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。

- ② 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆類

（1）通過前

- ① 豆類は湿害に弱いので、必ず排水路や排水口等の点検を行い、ほ場内に滞水させないようにする。
- ② 大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

（2）通過後

- ① 大豆・小豆では、莢が地面に付いていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。
- ② 浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病害虫防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

(1) 通過前

- ① ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

- ② 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
- ③ 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。
- ④ 排水路を点検し、8月の大雨で崩れたり埋まったりしている場合は整備する。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 液肥(500～1,000倍)を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③ 雨による傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。
- ④ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。

4 果樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- ② 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ③ ハウス(雨よけ含む)では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④ 棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ(傷果防止)。
- ⑤ 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥ 強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種(ナシ、ブドウ等)では、できるだけ収穫する。
- ⑦ 排水対策(明きょ等)をしっかりと行っておく。
- ⑧ 収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。
- ⑨ ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病、イチジクでは疫病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
なお、ナシ・ブドウ、イチジクは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理する。

- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻し、癒合剤を塗布する。
不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③ 冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- ② 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面に木材チップ等のマルチやほ場からスムーズな排水が行えるよう排水路につながる明渠等を設置し、周辺排水路の整備・清掃を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、上記対策を励行する。
- ③ 被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。また、被覆棚を補強するアンカー等に緩みがないか確認する。
- ④ 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。トンネル内の遮光率が下がるため、トンネルに適当な遮光率の寒冷紗を直掛けし、トンネルとともにしっかりと固定する。また、飛来物等でトンネルが破損しないよう周辺を片付ける。
- ⑤ 茶園に防風ネットや獣害柵を設置している場合は、保守・点検を行う。
- ⑥ 製茶工場では、電気施設及びガス、重油保安施設の電源や元栓を確認する。出入り口や窓の戸締まりを徹底し、煙突や排気口、換気扇等の補強・整備を行い、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 強風や激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 土砂が流入した場合は速やかに取り除く、逆に表土が流亡した場合は早急に土入れを行う。
- ④ 病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。
- ⑤ 茶園にある施設の点検・確認を行う。
 - ア 被覆棚の確認
 - ・パイプ、アンカー、ワイヤー、被覆資材等の破損がないか点検を行う。
 - ・ワイヤー、アンカーの緩みやアンカーの浮き上がりがあれば修理する。
 - イ 防霜ファンの配線(温度センサー含む)、配電盤など、断線等の不具合がないか点検を行う。
 - ウ 獣害柵設置ほ場では、柵の破損や土壌流出による隙間など、動物の侵入口がないか点検を行う。
- ⑥ 挿し木床の挿し穂の状態を確認し、必要に応じて灌水を行う。トンネルに破損が無いか確認し、破損があれば修復し、再びトンネルを行い、日よけの被覆資材を設置する。

- ⑦性フェロモン剤(交信攪乱剤)を設置した茶園では、剤が地面に落ちたり、切れたりした場合には、拾って再設置する。
- ⑧海の近くにある茶園で葉に塩分を認めるときは、できるだけ早く水洗する。
- ⑨茶工場が浸水した場合、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。生葉コンテナ等水洗い出来るものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。また、油漏れがあるか確認し、特に茶葉が通過する箇所に油の付着がないか確認する。
- ⑩作業時にはヘルメットやゴム手袋を着用し、複数で作業するなど安全に留意する。